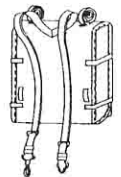


## 4. ランドセル

小学生の通学鞆といえば「ランドセル」だが、ランドセルを最初に通学鞆として採用したのは学習院である。ランドセルは元々は兵士が物品を入れて背負う背囊はいのうのことで、オランダ語の「ランセル」(ransel=背負い鞆)が転訛したものである。学習院では、明治18年(1885)5月より「通学途上必ス背囊ヲ負フヘシ」と学生心得に定められ、生徒休憩所には「生徒用の書物入れはヨーロッパの歩兵ランドセルの形にするので、新しく作る場合はランドセルにすることが望ましい。製造を希望する者は申し出れば、2円60銭位で作れる」といった内容の貼紙がなされた。

高松宮は明治44年4月に学習院初等科へ入学。その際にこのランドセルを背負い、赤坂御用地内の皇孫仮御殿(後の昭和天皇・秩父宮・高松宮が居住)から四谷の学習院まで、徒歩で通学した。ランドセル横には黒漆塗の筆箱がさしてある。

(長佐古美奈子)



(学習院学生心得「学習院百年史」より)

## 5. メダル・バッジ等 -御活躍の軌跡-

御遺品の中には、各種の機関や団体の会員章や式典・大会参加賞・スポーツ競技会の賞品などのメダル・バッジ等が900点以上ある。中にはメダル・バッジのほかネクタイピンやバックル・ブローチ・ワッペン・リボン等も含まれ、父君大正天皇や兄君昭和天皇・秩父宮から譲渡されたと推定されるものや、喜久子妃が受けられたものもあるが、大半は高松宮のぶひと宣仁親王御自身がさまざまな御活動の中で受領・保存されたものである。

宣仁親王が学習院初等科に進学された明治44年(1911)の初等科運動会での1等賞メダルをはじめ、明治末年から大正前半期の資料には学習院輔仁会運動会・競漕会や各部のメダルが多く、昭和初期には事実上の御新婚旅行であった昭和5~6年(1930~31)の欧米御訪問時に各国から受けられた記念メダル等がある。軍務に服された戦時中には「支那事变従軍記章」・「金鶏勲章」や「紀元二千六百年祝典記念」等、そして戦後には皇族として役員を務められた同胞援護会等の社会事業団体や国民体育大会等の各種競技会等への御出席で受領されたバッジなどが大量に遺されている。

さらには、高松宮杯を授与されたジャンプなどの各種スキー大会・駅伝競走大会・自転車競走大会・英語弁論大会等に伴うものもあり、さながら高松宮の御活躍の軌跡を物語る資料である。

(岡田茂弘)

※敬称、敬語は省略させていただきました。ご寛恕のほどお願い申し上げます。

